

No. 99

甲状腺検査に被災者続々

福島第1原発事故の被災者を対象として、県内の2病院が始めた甲状腺機能検査に、多くの被災者が集まっている。福島県から秋田県に避難している人だけでなく、福島県在住者も訪れ、待合室では早朝から何組もの親子が順番を待つ。背景には、不安を抱えて避難している人に対する医療支援の少なさを、福島県による子供の全員検査は順着がなかなか回ってこないことなどがあると思われる。支援団体は「被災者が全国どこでも一定の医療サービスを受けられるようにする必要がある」と指摘している。

小林洋子

「うはごっくんとしてすね」と言われる。母親の表情が和らいだ。検査を始めた渡辺医師は88年のチ病院の一つ、秋田市の中通総合病院。小児科統括科長の渡辺新医師は、検診にきた子供のどに手を当てながら、甲状腺に異常がないかを確認した。「診たことには問題ないで

田市のNPO「日本ペ

県内2病院 福島在住の人も「全国的な体制整備を」



甲状腺の触診を受ける女児—秋田市の中通総合病院で

ラルーシ友好協会」の要望を受けて3月14日から検査を始めた。同病院では診察と超音波検査、血液検査の3点セットを行う。検査は結果が出るまで約2時間。費用は自己負担(6700〜1万3020円)だが、今月9日までの約2カ月で118人が受診した。このうち52人は福島県

から秋田県内への避難者38人は福島県在住者19人は福島県から秋田県以外に避難している人—などだった。検査を行っているもう一つの大曲中通病院(大曲市)では、3月13日から5月9日まで14人が受診した。中通総合病院まで福島市から車で5時間かけて長女(5)と来た大

槻真希(さん(32)はこのとき出産直前で、「事故から1年たったのに、自分や子供の体がどうなっているのかわからない。詳しいことを知りたいと思って来た」と不安を口にした。福島市で長女は一度、ホールボディーカウンター検査を受けたことがあるが、大槻さん自身は受けていなかったという。福島市から秋田市に自主避難している女性(43)は、中学1年の息子と小学5年の娘、母

親(73)の4人で検診を受けた。「自己負担なので迷ったが、検査を受けたことがなく、心配なので来た。今後も定期的に診てもらいたい」と話した。福島から秋田へ避難した被災者を支援する「秋田つくしま県人会」事務局代表の結野祐・秋田大准教授は「自主避難者からは検査体制を整えてほしいという要望が強い。県内で検査できる意義は大きい」と話す。ペラルーシで約5年半、原発事故の被災者の医療支援活動に携わった医師で長野県松本市長の菅公昭さんは「甲状腺がんは超音波検査で早期発見が可能だが、甲状腺以外の健康への影響をみるには検査項目を増やし、定期的に検査を続ける必要がある」と指摘している。